

The 39th

TOKYO MOTOR SHOW 2005

Passenger Cars & Motorcycles



News

vol.

6

平成17年10月25日

第39回東京モーターショー2005

乗用車・二輪車

"Driving Tomorrow!" from Tokyo みんながココロに描いてる、くるまのすべてに新提案。

「完全復活」で新しい価値を創造

日産自動車



初公開した「GT-R PROTO」

経営改革の第2ステージである「日産180」の最後の課題となっていた100万台の世界販売台数増をコミットメントどおり達成し、「完全復活」を宣言した日産自動車。この10月からは新たな経営計画「日産バリューアップ」が本格的に動き始めた。新しい計画ではグローバルで28車種の新型車を投入し、3年間で世界販売台数を約420万台にするというのが新たなハードルである。

今回の東京モーターショーの場を、今までの常識を変えて、日産が大きくシフトしていることを全世界に向けてアピールする絶好のタイミングとして捉えている。

日産の一貫したメッセージである「SHIFT」をメインテーマに、西ホールにあるブースでは同社の強みであり財産でもある「ドライビングプレジャー」をはじめ「モダンリビング

デザイン」そして「イノベティブテクノロジー」の3つのアピールポイントを提示。新しい価値を創り出す近未来カーなどでわかりやすく表現している。

なかでも究極のドライビングプレジャーの姿で、今回のショーで初公開した次期GT-Rのコンセプトモデル「GT-R PROTO」に熱い視線が注がれている。

日産のカルロス・ゴーン社長兼 CEO(最高経営責任者)は報道公開日で「フェアレディZが日産再生のシンボルであるなら、GT-Rは日産の躍動する力の象徴」などと強調した。最終モデルをイメージさせる「GT-R PROTO」のある中央ステージには連日、復活を待ち望む熱狂的なファンが押し寄せて「夢のクルマ」との出会いに胸をときめかせているシニア層も多く見受けられる。

テーマは「SHIFT」、クルマは「夢を実現」



「アメニオ」は「モダンリビングコンセプト」の思想をミニバンに発展させた「マルチ・ピープル・キャリアー」

未来の電気自動車の可能性を追求する「ピボ」



環境技術の展示コーナーも



近日発売予定の「モコレビュー」

コンパクトなクーペボディの「フォーリア」

今回は参考出品車8台、市販乗用車12台の計20台を展示。正面ステージの「ピボ」は、ユーザーフレンドリーを基本コンセプトに、将来の電気自動車の可能性を追求する夢のクルマ。観覧車のゴンドラのようなユニークなデザインで、都会で生活する若い女性たちから「こんなクルマがあったらいいの」という提案をできる限り具現化させた。4輪の操舵と駆動が独立制御され、駆動部分と運転席を「分離」することで、キャビンの向きが180度回転し、前後に変えられるため、行きたい方向に向いてくれる。バック走行が不要の未来のコンパクトカーである。

ブリーフィングコラム



完全復活した日産が大きくシフトしていることをお伝えしたい。

日産自動車
カルロス・ゴーン
社長兼CEO（最高経営責任者）

今回のショーでは、国際的にも熱狂的なファンが存在している「GT-R」の復活に見られるように、完全復活した日産が大きくシフトしていることをお伝えしています。

これからのクルマに新しい価値を創り出し、すべての人が心をときめかせるクルマを、次々とカタチにする。より多くの人々を喜ばせ、より多くの人々を豊かな気持ちに変えるために、私たちは自動車メーカーのためでなく、お客様のためにクルマ作りをしていることを感じ取っていただけるものと期待しています。

正面中央ステージの左側の「アメニオ」は「ティアナ」で脚光を浴びた「モダンリビングコンセプト」のポリシーをミニバンに発展させた「マルチ・ピープル・キャリアー」だ。フラットでゆったりとしたサイズの室内には、ラウンジチェアのような6つのシートを配置。助手席と2列目には電動スライドにリクライニング、オットマンが装備されており、美しく繊細なインテリアは最上級のくつろぎと癒しの空間を演出している。

「GT-R PROTO」を展示している中央ステージの右側にある「フォーリア」はコンパクトなクーペボディに走る歓びのスポーツマインドとエレガンスを包み込んだ贅沢なコンセプトカー。「感度の高い大人のカップルに向け、感性に響く作り込みを十分に心がけた」（説明員）というこだわりのクルマ。とくに、インストルメントパネルやセンターコンソール、さらに、ドアトリムなどは厚みのあるプレーンな肌触りの本革を使用。贅沢な風合いと手縫いの質感が楽しめる。

インテリアデザインにあたっては、日本の伝統技法「印伝」からヒントを得た突起状処理を取り入れており、和の静けさを持つ日本独特の感覚を表現している。

このほか「ノート インスパイアード by アディダス」は、ハードな動きにも耐えられるようなスポーツウェアをさりげなく街着として着こなす若者世代の感覚をヒントにしており、気分次第でパーツなどの“着せ替え”が可能。今年度、国内でも発売予定の「ウイングロード プレビュー」「ブルーバード シルフィ プレビュー」さらに「モコ プレビュー」も参考出品するなど、多彩なニューモデルを投入している。

プジョー 落ち着いた雰囲気のにシックさあふれる新モデル群が並ぶ



プジョーは5台のジャパンプレミアを展示のメインに据えている。2ドアクーペ「407クーペ」は、優雅さと躍動感を併せ持つフォルムとしなやかな乗り心地、高い動力性能を兼ね備えた、プレミアムクラスのパーソナルカーだ。

「1007」は、両側にスライドドアを持つコンパクトハッチバック車。シートやトリムのカラーを自由にコーディネートできるなど、楽しいアイデアが盛り込まれている。今年6月に欧州でビッグマイナーを受け、フロント、リアのデザインが刷新された「307」も、7人乗りワゴンのSWなどフルラインでの登場。ほか、プジョー得意の低公害ディーゼル、「DT17」型2.7リットルV6も展示されている。



流麗なデザインの「407クーペ」

ルノー ルノーのエスプリが凝縮されたコンセプトカー、新コンパクト、F1

2005年F1選手権でドライバー、コンストラクターの両タイトルを獲得したルノーは、ブースにF1マシンを展示するなど、スポーティさを前面に出している。

コンセプトカーは2台。「エジェウス」はスポーティカーとSUVのクロスオーバー（中間領域）、高級4シータークーペの「フリーエンス」は流れるようなデザインの美しさを提案している。



スポーツSUV「エジェウス」

シトロエン 優雅なデザインの大型セダンがフランスの先端技術をアピール CITROËN



ハイドロニューマチックサスペンションを備える「C6」

シトロエンは2車種のジャパンプレミアを用意している。来年、日本でも発売される「C6」は、金属バネではなく、油圧と空気圧で車体を支える同社伝統のハイドロニューマチックサスペンションを備える大型上級セダンだ。ゆったりとした室内は快適性に優れる。また技術面でも電子制御サスペンション、ヘッドアップディスプレイや車線逸脱警告システムなど、最新の電子装備が多数採用されている。

個性的なスタイリングのコンパクトカー「C3」はマイナーチェンジを受け、インテリアデザインが大きく変更された。またフロントグリルも同社のシンボル「ダブルシェブロン（2重の山形模様）」形状のものとなった。



RENAULT



高級4シータークーペ「フリーエンス」

小型モデル「ルーテシア（欧州名クリオ）」も日本初発表。コンパクトながら広い室内空間を持っているのが特徴だ。また、2リットルエンジンを搭載し、内外装をスポーティかつ上質にまとめた「ルーテシア ルノー・スポール コンセプト」も展示された。

クルマ税“一般財源化”反対の署名運動に参加しよう!!

「多すぎ、高すぎ、取られ過ぎ」の今のクルマ税。しかも改悪されようとしている。そんなことを許してはならない。

日本自動車連盟（JAF）と自動車税制改革フォーラムは西・北ゲートや中央モール2階通路のJAFコーナーなどで、クルマ減税を主張する署名運動を行っている。「道路のために払っているクルマの税金の転用には反対。道路整備以外に使うのであれば本来の税率に戻すべき」というのがその趣旨。集められた貴重な署名は政府に提出する。

道路を作るためにこれまで、クルマユーザーだけが払われ続けている自動車取得税、自動車重量税、ガソリン税、軽油引取税などは「道路特定財源」と呼ばれる。最近では以前ほど道路を作らなくなったせいで、これらのクルマ税が余ってきた（余剰金）。それが再来年には7,600億円にもなるとされる。それをクルマユーザーには黙ったまま他の仕事にちゃっかり使ったり（転用）、道路以外に全部全く自由に使えるやり方（一般財源化）にしてしまおうとの動きが出てきているのだ。

これはとても納得できない。日本の道路は先進国に比べまだ



まだ貧相との理由で、急いで道路を作るために、もともとの税率（本則税率）より高く取る税率（暫定割増し税率）を何度も重ね（増税し）てきている。これからもう道路をあまり作らなくてもいいと国が判断するのなら、本則税率に戻して、余った分をクルマユーザーに減税するのは当たり前ではないか。

TOPICS
トピックス

自販機の缶コーヒーも、カード1枚で 少額払いに便利な JCB カードの「QUICPay」



QUICPay のショー記念オフィシャルカード申し込みを JCB ブースで受け付けている。



自販機の専用読取機にカードをかざすだけで、缶コーヒーやペットボトル飲料が買えたり、ファミレスでの食事代やタクシー料金などの支払いを簡単にスピーディーに済ませる、JCB が今春から始めた「QUICPay」サービス。いってみれば普段使っている親となる JCB カードにリンクした、足の速い子カードが誕生した形だ。この「QUICPay」マークがある加盟店で利用でき、代金は予め登録した JCB カードでまとめて決済される。

JCBは、「QUICPay」普及のために東京モーターショーに協賛、「QUICPay」専用と、クレジットカード一体型の2種類を1万枚限定のショー記念オフィシャルカードとして発行。ショー会場中央モールの展示ブースでは、自販機を使った「QUICPay」実演による飲料サービスと合わせ、会場内の20店舗以上で実際に利用することもできるこのオフィシャルカードの申込みを受け付けている。

VIP来場 2005年10月24日(月)

自民党環境部会長
水野 賢一 衆議院議員

今日のイベント(予定)
2005年10月25日(火)

- * **トライアルデモンストレーション**
11:45~12:15 } フェスティバルパーク
14:20~14:50 } (西休憩ゾーン)
- * **交通安全トークショー**
12:50~13:20 } フェスティバルパーク
15:50~16:20 } (西休憩ゾーン)
- * **bay fm生放送**
13:30~14:00 } フェスティバルパーク
(西休憩ゾーン)
- * **クリーンエネルギー車同乗試乗会**
10:30~16:30 } 特設専用コース
(幕張海浜公園内 メッセ周辺公道)

※天候等の都合により予定が変更になる場合がございます。

KONICA MINOLTA

ON DEMAND PUBLISHER C-51N

ご存知ですか?
コニカミノルタ オンデマンドプリントシステムは、
世界56ヶ国の主要新聞276紙をサポート。

The essentials of imaging

このニュースは コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C-51N で出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
ODI事業部
TEL 03-5205-7820
Email odi-info@bj.konicaminolta.jp
URL http://www.ebook-print.com

TOKYO
MOTOR SHOW
2005

10月24日の入場者数 58,500人
入場者数累計 293,500人

東京モーターショーニュースVol.6 2005年10月25日発行
発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA